

平成 25 年度鍼灸等研究費研究成果 要約

研究課題名	骨盤位の鍼灸治療の安全性と有効性の検討,および治療指針素案の作成に関する研究--多施設症例集積とランダム化比較試験(RCT : Randomized Controlled Trial)
班長 氏名/所属機関	辻内敬子/せりえ鍼灸室
班員 氏名/所属機関	小井土善彦/せりえ鍼灸室,酒井厚/酒井鍼灸院,鈴木裕明.木津正義/明生鍼灸院,前田尚子,金子純子,梅田卓弥/筑波技術大学鍼灸センター-非常勤鍼灸師,善方裕美/よしかた産婦人科
成果	4施設の組み入れ基準を満たした症例数 70 例の矯正率は経産婦 88.5% ,初産婦 72.7%であった.RCT による骨盤位の対象者は 6 例と少なく比較が困難であった.今までの研究成果から骨盤位の鍼灸治療は安全性に優れ,不定愁訴の改善も期待できる治療法であると考えられた.RCT は症例数を増やして検討する必要がある.
1.目的	4 施設間で症例集積を行い, ①骨盤位の鍼灸治療法の矯正率と安全性 ②骨盤位妊婦の不定愁訴の改善率の検討をする. 1 産婦人科医院にて RCT による ① 鍼灸治療群と対照群の矯正率と不定愁訴を検討する
2.内容	1.妊娠 28 週以降の骨盤位妊婦の矯正率を初,経産婦別に調査する.基本穴は三陰交と至陰穴として鍼灸治療を行う. 2.不定愁訴については独自に作成した 40 項目について初診時,2 診時,治療終了 2 週間後を調査する. 3.RCT は,産院で矯正率と不定愁訴を比較検討する.
3.成果/考察	1.矯正率は,70 例中矯正群 55 例(78.6%),骨盤位群 15 例(21.4%)であった.初産婦の矯正率は 72.7%.,経産婦の矯正率は 88.5%であった.初産婦・経産婦は別々に矯正率を検討する必要がある. 2. 70 例の不定愁訴は治療後に減少し,治療終了 2 週間経過後も持続した. 3.安全性に配慮した鍼灸治療が提供でき,分娩は負の因子がなく出産した. 5.RCT は症例数が少なかったが治療群は対照群と比較すると不定愁訴の軽減がみられた.